

**第 2 期八戸市次世代育成支援行動計画後期計画 令和 3 年度実施状況に関する
質問・意見に対する回答**

事業番号 18 事業・取組名 幼保小連携推進事業	
意見	<p>・幼保小連携研修講座をオンラインで開催とあります。コロナ禍における交流のあり方について検討したということもありました。他の課で市民向けに行う健康教育や相談等にも生かしていけるのではないかと考えます。</p>
回答	<p>担当課：教育指導課</p> <p>「幼保小連携推進事業」は、幼児教育から小学校教育への円滑な接続をねらいとし、市内幼児教育施設と小学校が、子どもの発達や互いの教育内容についての連携を深め、互いに理解し尊重し合って幼児児童の学びの連続性を図るものである。</p> <p>その中で、「幼保小連携研修講座」は、全体研修会として位置付け、講師による講演とグループでの分科会を行っている。</p> <p>コロナの影響により、2年続けて Zoom によるオンライン開催となっている。今年度は、幼児教育施設 62 園 92 名、小学校 38 校 40 名、計 132 名の参加があった。講演は、オンラインで講師と各学校・園を接続して実施し、分科会はブレイクアウトルームを使用し参加者を 17 グループに振り分けて実施した。参加者からは、講演内容、実施方法等について概ね肯定的な意見をいただいている。</p> <p>また、本事業では「オープンスクール」や幼児児童の交流学習を行う「地区会」があるが、これについても、コロナ禍により実施が難しい状況が続いている。そこで、各学校では、小学校 1 年生が学校紹介 DVD やパンフレットを作成したり、生活科で作ったおもちゃに説明書や DVD を付けたりして、幼児教育施設に送付するなど、工夫した取組が見られるようになってきた。加えて、小学校の参観日、幼児教育施設の公開保育等を通じて、教職員が教育・保育の様子を相互に参観して理解を深める取組も多く見られるようになっている。</p> <p>本来、幼児教育施設及び小学校の教職員、幼児児童が直接顔を合わせての交流が望ましいが、新型コロナウイルスの状況に鑑み、集合形式・オンライン形式を使い分けながら、円滑な接続が図られるよう取り組んでいきたい。</p>